

# 河川基金助成事業

## 2019年度活動報告書

### 馬入水辺の楽校及び地域の自然環境の保全と環境教育の推進

助成番号：2019-6111-003

NPO 法人 暮らし・つながる森里川海

理事長 白井勝之

2019年度成果報告



## 事業別活動報告

### ● 生物多様性保全活動

川の自然と触れ合える場づくりを目指して、「生き物の王国づくり」を進め、エコスタックづくりや原っぱの保全活動などに取り組みました。

ウナギの棲む川づくり運動では石倉カゴの調査を2回実施し、ウナギなど、多くの水生生物のすみかになっていることがわかり、有効性を確認しました。

尚、桂川・相模川流域協議会との協働で、相模川に新たに2基設置される計画が進んでいます。また一步前進しました。

### \* 馬入水辺の楽校生き物の王国づくり

- ・ トンボ池のエコアップ（6月1日：参加者10人）写真左
- ・ 地べた探検とエコスタックづくり（2月15日：参加者22人）写真中・右



草を刈って、攪乱すると多くの生き物がすみつきます。



地べた探検は発見の連続です。枯れ木を積んで生き物のすみかをつくります



### \* プロジェクト ウナギの棲む川づくり運動

お魚調べ：4月6日（写真左・中）、9月28日（写真右：透視度測定）

参加者合計70人

お魚調べは子どもたちの大人気です。どろんこもへっちゃらです。

9月28日には京浜河川事務所との協働で水質検査も実施しました



**\* プロジェクト 素敵な原っぱづくり 参加合計 34 人**

6月22日、7月31日、9月11日、10月2日、10月31日、12月25日  
絶滅が懸念されているカヤネズミの生息地を守るため、クズや外来種セイタカアワダチソウやシナダレスズメガヤ、オオブタクサの除草に取り組んでいます。植物が繁茂しすぎて利用しにくい場所も増えていることから、環境改善に力を入れています。

写真：河川基金の助成で草刈機ハンマーモアを購入しました。丈の高い、ブッシュ化した草もバリバリ刈れて大助かりです。右の写真はカヤネズミの巣です。



**● 環境教育活動**

「子どもの時は子どもする」を合言葉に、多様な環境学習活動を展開しています。参加者数は活動のバロメーターです。魅力ある催しの開催を基本に、広報活動を強化すると共に、これまで参加者してくれた方に、個別に電話するなど、細かく対応しています。

**\* 地域のイベントに参加し、活動を PR しています 参加合計 935 人**

平塚市緑化祭り（4月27～28日：612人）花水地区子ども大会（5月12日 323人）



草笛教室（写真左）やミミズと遊ぼう（写真右）、ストーンペインティングは、いつも子どもたちの人気です。

**\* 水ガキ養成講座 参加合計 266 人**

森と海はつながるをコンセプトに、水ガキ養成講座を開講しています。安全管理など、エネルギーのかかる取り組みですが、子どもたちの笑顔を見ると、力が湧いてきます。



**・カヌー&ガサガサ魚とり（7月21日：参加88人）**

馬入水辺の楽校の少し上流、神川橋の下流で魚採りとカヌーを楽しみました。ここは下流に比べ、水がきれい、浅くて、安全管理がしやすい場所です。上下流交流会の一環として実施。馬入や相模原市、山梨県の子どもたちが大勢参加し、エネルギーを発散させました。桂川・相模川流域協議会との協働活動が成果を上げています。



**・川の自然楽校（8月3日：参加52人）**

馬入水辺の楽校でライフジャケットを使った川遊びと魚採りを楽しみました。松原公民館や四之宮公民の親子連れで賑わいました。

馬入川は暮らしの近くにある、自然のワンダーランドですが、深く、干満の差が大きいため、気軽に川遊びを楽しめません。加えて「危険だから近寄ってはいけない」と言われているため、川と人の距離は遠のくばかりです。



プログラムの根幹は、ライフジャケットの使い方講習です。誤って川に流された時の対応方法を学んでもらいます。上に向けて浮くことや、ローリングの仕方、足を川下に向けて流れること等、実際に体験してもらいます。干潮、満潮の時間を見て、川に入ること、川

遊びに詳しい大人といっしょ遊ぶことなどを伝えると共に、昔のガキ大将たちが魚採りの方法などを伝授しました。



**・桂川・相模川上下流交流会**

**（8月17日：参加74人）**

今年で4年目の上下流交流会。源流域の山梨県で清流の生き物調べと皮むき間伐体験を実施しました。きれいな水に棲む生き物が多数みつき、熱中、生き物調べとなりました。皮むき間伐体験は子どもたちの心を揺り動かしました。「こんなに、木がつる

つるしていると思わなかった。これからは自然を大切にしようと思った」「自然とかわる体験ができた。森を大切にすることをつなげていきたい」など、新鮮な体験になったようです。



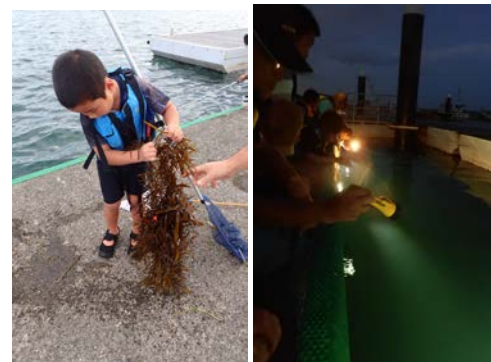
#### ・平塚新港海のお魚調べ（8月31日：参加52人）

平塚市漁業協同組合の協力で、ひらつかタマ三郎漁港で海のお魚調べを実施しました。定置網漁で獲れた魚、子どもたちが港内で捕獲したもの、見たもの、夜の集魚灯に集まったものなどを含めると、何と1日で81種となりました。水槽の中はカワハギやサザナミフグなどの稚魚であふれました。



魚釣りに訪れた市民も覗いていきます。種類を聞きに来る人、釣った魚をくれる人、釣竿を持たしてくれる人など、子どもたちとの交流が深まりました。

圧巻は夜の生き物調べ、スポットライトで海を照らしているとプランクトンが多数、水面に集まり、それを狙って小魚が集まります。アンドングラゲの長い触手がユラユラと動き、みんなの心を惹きつけました。新たな自然観察のプログラムが生まれました。



ところで、魚といっしょにゴミもいっぱいすくってしまいます。するとどうでしょう。子どもたちから「きたない」「お魚がかわいそう」「ゴミは捨てない」との声あがりました。毎年、ゴミ拾いを実施していますが、こんなシーンは見たことがありません。ゴミが自分ごとになりました。



#### ・お散歩バーディング

4月7日、5月5日、12月7日、1月5日、2月2日、3月1日（参加合計54人）

市民参加による探鳥会を6回開催しました。継続は力なりで、たいてい5～6名なのですが、3月1日は14名の参加がありました。

川やワンド、トンボ池や原っぱなど、多様な環境があることから、多くの野鳥が見られます。

新年度はバードサンクチュリーを目指して、野鳥が集まる楽校づくりにチャレンジします。

写真はハヤブサの仲間のチョウゲンボウです。みんなの人気です。水辺の楽校に隣接する工場のダクトで営巣しています。



・ともしびの夕べ 11月16日（参加者約600人）

初の試み「ともしびの夕べ」には多数の市民が訪れ、光の祭典を楽しみました。馬入水辺の楽校の活用促進策の一環として実施したもので、ワークショップの成果が実りました。会場には多数の竹とうろうやガラス瓶キャンドルが飾りつけられ、幻想的な光で包まれました。自然展も開催され、クズのツルの野あそびやストラックアウトなど、子どもたちの歓声であふれました。準備から開催まで、多数の人の支援で実施できたことが一番の収穫であります。



灯りが点灯すると、見慣れた風景が一変しました。昼間はパネル展示や野遊びを楽しみました。ストラックアウトやクズのつるの輪投げなど、子どもたちの人気となりました。竹灯籠づくりやガラス瓶キャンドルづくりにもチャレンジしました。



全てはワークショップ「ミズベリング in 馬入水辺の楽校」から始まりました。企画が決まった後、みんなで、竹灯籠やガラス瓶キャンドルをつくったり、企業支援を要請したりなど、精力的に動きました。本来は冬季に竹を切り、竹の油抜き作業がありますが、今回は「ゆとりすと」の皆さんの竹をお借りしました。人の輪が馬入を変えていきます。



\* おもちゃ広場（4月13日、6月15日、7月25日、8月7日、8月10日、9月21日、10月19日：参加合計269人）

木のおもちゃと触れ合う木育活動を展開しています。林野庁が進めているプロジェクトです。

木材の利活用を図ることから、森林保全活動やいい川づくりにもつながります。

今年は初の試みとしてマイ箸づくりやけん玉教室、ともしびの夕べ開催のPRを兼ねて、ガラス瓶キャンドルづくりも実施しました。

人の集まるところで実施しようと、神奈川土建組合の催しに参加したり、ららぽーと湘南平塚のイベント広場ツリーハウスをお借りして、実施しました。ららぽーと湘南平塚との連携がともしびの夕べ開催支援に結びつきました。



写真上：おもちゃ広場、中：木のおもちゃと遊ぶ、下左、マイ箸づくり、下右：けん玉教室

## ● 協働活動

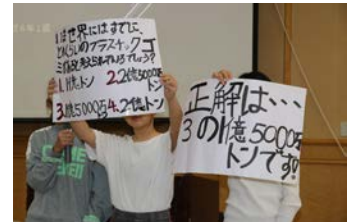
他団体との連携による環境視点の街づくりに取り組んでいます。

### ・ 桂川・相模川流域協議会（いい川づくり）



私たちがメンバーの一員です。

桂川・相模川上下交流会、相模川クリーンキャンペーン(5月19日：写真左2枚)、寒川の河原で遊ぶ、カララノギク復活プロジェクト、桂川・相模川流域協議会シンポジウム、ウナギの棲む川づくりなどで協働しています。11月10日には、プラゴミ削減のシンポジウムを開催しました。(写真：右2枚)



### ・連携組織

日本野鳥の会神奈川支部、NPO フェージョン長池、NPO ひらつかエネルギーカフェ、地域ボランティアゆとりすと、湘南 NPO サポートセンター、ひらつか市民活動センター、東京環境工科専門学校、平塚市松風幼稚園（木育活動）、花水地区子ども大会、湘南生活クラブ生協、平塚市漁業協同組合、（株）ビオトープギルド、（株）建設環境研究所、湘南ケーブルネットワーク（株）、（株）タウンニュース社、（株）湘南ジャーナル社、ららぼーと湘南平塚

### ・行政との連携

\* 国土交通省京浜河川事務所

相模川ふれあい懇談会（世話役）、河川協力団体に指定

\* 神奈川県水産技術センター内水面試験場

\* 平塚市

ひらつか環境ファンクラブ（平塚市環境展、ひらつか環境ファンクラブパネル展）

みどり公園水辺課、環境政策課、環境保全課、公民館、松原地区自治会、

平塚市緑化祭り（馬入水辺の楽校ミニミニ自然展）

### ● 広報活動

運動の輪を広げるべく、広報活動を積極的に実施しました。

- ・ HP 活用、会報（年 3 回）通信（年 2 回）
- ・ 河川財団の HP での活動報告
- ・ タウン誌、平塚市広報等への情報提供。

以上



3. 川づくり団体部門 [実施箇所位置図]

助成番号	助成事業名		所属・助成事業者氏名	
2019-6111-003	馬入水辺の楽校及び地域の自然環境の保全と環境教育の推進		NPO 法人暮らし・つながる 森里川海 理事長 臼井 勝之	
助成事業の主な実施箇所	主な実施箇所 馬入水辺の楽校			
				
河川基金ロゴ等表示状況写真	遠景		近景	
延べ参加人数	一般	2,345 名	スタッフ・事務局	142 名
マスコミ等の反響	平塚市広報、タウン誌で紹介されました。			